

9条「このまま」13名から！

市長選・市議選「9条」アンケート

4月12日投票の坂戸市長選挙並びに市議会議員選挙への立候補を表明している29名に、「憲法9条アンケート」を行ないました。

市長選では4名中2名から、市議選では25名中17名から回答が寄せられました。ありがとうございました。

回答結果と「9条への思い」を50音順で紹介いたします。

◎「憲法9条はこのままでいい」市長候補（3名）

◆**安沢はるか** 改めて憲法9条を読み返しました。自衛隊の仕事を細かく明記して戦争に参加しない事がわかるようにしてほしいです。自衛隊はどうして存在しているのか、決して戦争をするためではないと国民に思わせてほしいです。戦争の放棄は大事です。

◆**石川 清** 戦争は二度としてはいけない！

◆**小川達夫** 先の大戦で多くの犠牲者を出した日本。現行憲法は、その反省から「戦争をしない国」を選んだと考えている。そのことを忘れず、国民の命を大切にす国家であり続けてもらいたい。

◎「無回答」の市長候補（1名）

◆**尾崎全紀**(N国党)

◎「憲法9条はこのままでいい」市議候補（10名）

◆**新井文雄**(日本共産党) 憲法9条は日本の宝。戦争をしない。これほど理想の憲法は世界に類を見ない。戦争（武力）では何も解決しない。9条がある限り戦争はできない。

自衛隊の海外派兵や100億円兵器の爆買いに突き進む、憲法違反の安保法制（戦争法）は廃止を！

◆**野沢聖子**(公明党) 4年前に成立した平和安全法制により憲法9条の下で許容される「自衛の措置」の限界が明確になりました。この法整備によって日本を取り巻く厳しい安全保障環境の中で、平時から有事に至るまでの間断なく安全確保が可能になったと思います。今後は国民の理解を得ていくことが重要と思います。

◆**柴田文子**(公明党) 平和安全法制により、憲法9条の下で許容される自衛の措置の限界を明確にし、現下の厳しい安全保障環境の中でも隙間なく国民を守る体制を構築しました。今は、同法制の適切な運用を積み重ね、国民の理解を広げることが重要と考えます。

◆**鈴木ともゆき**(日本共産党) 戦争をしない、戦力を持たないと定めた憲法9条は理想であり、変える必要はない。

憲法は国民が国に求めるルールであり、戦争できる国に変える改定はするべきではない。

◆**武井 誠**(社民党) どんなことがあっても、戦争は絶対にやってはいけません。「抑止力」という考え方は、果てしない軍拡、戦争の危機拡大につながります。特に核兵器保有数の拡大・拡散の先にあるのは人類の滅亡です。

ベクトルの向きを軍縮に。そのために私たちは、今こそ憲法9条の精神を生かし、率先して防衛費を削減し、世界に「武力で平和は守れない」と発信していくべきです。税金は、人を殺すためではなく、人の命を大切にするために使われるべきです。

◆**中村ひろし**(立憲民主党) 12月4日に凶弾に倒れたペシャワール会の中村哲医師は生きる憲法9条とも称されておりました。私はペシャワール会で勤務し、中村先生の、アフガンの人々の命を守り抜くための意志と情熱に触れました。中村先生は自らの行動により憲法9条を体現されていたと感じております。

平和は元々存在するのではなく、積極的に構築するものであるということ、65万人を越えるアフガンの人々の平和な生活を守るペシャワール会の事業に学びます。今回、議員として地方から憲法9条を守り抜き、恒久的な平和を構築するため、闘います。

◆**平瀬としひさ**(日本共産党) 市議になる以前から改憲には反対であり、特に9条を変えることは許されないと考えていました。この4年間、市議として活動してきた中で、さらにその思いを強くしています。

さまざまな講習会に出席し、9条が世界的にも高く評価され、「9条の碑」が日本国内を含め、世界の多くの国々に建てられていることも知りました。

国連で2017年に採択された核兵器禁止条約にも、9条は間接的に影響を与えたものと考えています。

9条の精神は日本が世界に誇れるものであり、9条はその内容を一切変えずにこのままの方が

九条の会さかど 15周年のつどい

日 時 6月14日(日曜日)または28日(日曜日)13時30分～16時

会 場 坂戸駅前集会施設(2階)集会室

内 容 ただいま検討中(ご意見・ご提案など、お寄せください)

いいと考えています。私もそのために活動したいと考えています。

- ◆ **古内秀宣(公明党)** 平和安全法制が憲法9条の下で許容される自衛の措置の限界を明確にし、現下の厳しい安全保障環境の中でも隙間なく国民を守る体制を構築した。今は、同法制の適切な運用を積み重ね、国民の理解を広げることが大切だと考えます。
- ◆ **宮坂裕之(日本共産党)** 当たり前で明日が来ると思えるのは平和のおかげです。空から爆弾が落ちてこないから愚痴だと言えます。9条を守ることが、最大の国防だと考えます。
- ◆ **弓削勇人(立憲民主党)** 憲法9条はこのままで良いと考えております。また、理由は以下の立憲民主党の考えと同一のものです。

基本姿勢

「国家権力の正当性の根拠は憲法にあり、あらゆる国家権力は憲法によって制約、拘束される。」という立憲主義を守り回復させる。憲法に関する議論は、立憲主義をより深化・徹底する観点から進める。

日本国憲法を一切改定しないという立場は採らない。立憲主義に基づき権力を制約し、国民の権利の拡大に寄与するとの観点から、憲法に限らず、関連法も含め、国民にとって真に必要な改定があるならば、積極的に議論、検討する。

いわゆる護憲と改憲の二元論とは異なる、「立憲的憲法論議」を基本スタンスとする。

いわゆる安全保障法制について

日本国憲法9条は、平和主義の理念に基づき、個別的自衛権の行使を容認する一方、日本が攻撃されていない場合の集団的自衛権行使は認めない。この解釈は、自衛権行使の限界が明確で、内容的にも適切なものである。また、この解釈は、政府みずからが幾多の国会答弁などを通じて積み重ね、規範性を持つまで定着したものである(いわゆる47年見解。巻末参照)。

集団的自衛権の一部の行使を容認した閣議決定及び安全保障法制は、憲法違反であり、憲法によって制約される当事者である内閣が、みずから積み重ねてきた解釈を論理的整合性なく変更するものであり、立憲主義に反する。

◎「憲法9条は変えたほうがいい」市議候補(3名)

- ◆ **石井 寛** 9条は変えた方が良いと思います。
- ◆ **田中えい** 憲法の3つの基本原理(国民主権、基本的人権の尊重、平和主義)は堅持すべきです。従いまして、前文と憲法9条の平和主義の精神は堅持すべきと考えます。

専守防衛の自衛隊ですが、レスキューの装備を強化しながら、第二項を改正し自衛隊が憲法違反の存在では無いと明記されることを望みます。

知人の自衛官は、熊本地震のとき、被災した家族を残したまま、即応態勢を取るため、発災直後より自宅を出たまま被災地支援業務に真摯に従事しておりました。しかしながら、内心家族のことが心配です。残された家族も不安の中、身を案じながら健気に被災地で帰りを待ちました。頻発

する災害派遣に従事する自衛官が業務に専念出来るよう、自衛隊家族会としましても、自衛官の家族支援に取組み始めたところです。そのような苦労の中活動する自衛官の家族が、憲法違反だとか、好戦的と非難されるのは、あまりにも気の毒です。

海外に派遣される自衛官は、現状の規定では、ジュネーブ条約も適応されません。人質になった場合の世界共通の法の適応外となってしまいます。

北朝鮮による頻回のみ사일発射や、中国ロシア等による急増する領空領海侵犯など周辺事情の危険性の増加などを考慮しての、政府の外交力による平和の維持に期待します。しかしながら、命を守る備えは必要です。装備の充実は、抑止力ともなりえます。

以上を鑑み、憲法改正の必要があると考えます。

- ◆ **森田文明** 変えたほうがよい(制定から73年が経過し時代の流れによる社会の変化、国際社会の一員としての我が国の責務・あり方等を考慮すると、憲法第96条に基き議論を十分尽くし国民の賛同が得られれば)

憲法前文で、我が国は平和主義の立場に立つとし、第9条は平和主義の理念を具体化したものと理解しています。世界に対して我が国が戦争を放棄し平和主義に立つ国家であることを示していると思っています。

◎「その他」の市議候補(3名)

- ◆ **小川直志** 基本的にはこのままで良いと思いますが制定されてから年数が経過している。世界情勢が大きく変わっている現在において、真に必要なものは何か十分に研究し日本にとって必要なら変えることもいとわない議論をすることは必要と思う。
- ◆ **かぶらぎ幸代** 個人的には、日本人の根底にある、憲法9条は遵守するべきだと思います。戦争で足を失くし、その後闘病生活の上、亡くなった祖父ことを思うと、絶対に戦争を忘れ、同じあやまちを繰り返してはいけないと考えております。

世の中の流れが変わってゆくなか、九条の会さかどの皆様におかれましては、数年前、皆様方がTシャツをつくり、坂戸駅前集会施設で会合をなさっていたのを拝見しました。今後、坂戸からも全世界に発信し続ける。そういう九条の会であっていただきたいと願っております。

- ◆ **鈴木秀和**「改正するなら内容次第」日本の平和が9条によった部分は大きいと思います。もっとも現状では自衛隊が違憲になるグレーだと考えます。よって9条2項のみであれば内容次第で改正してもよいという立場です。

◎「無回答」の市議候補(9名)

- ◆ **石川新一郎(N国党)、猪俣直行、内田達浩、小澤弘、加藤則夫、塚田直樹、友田雅明、飯田 恵、藤野 登(公明党)**

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

4月23日、5月28日、6月25日(第4木曜日10時~12時)
会場は坂戸市役所正面玄関から入って右手のロビーで